

ガラケー一流！FXスワップ運用法の極意実践編



◇ガラケー流！FXスワップ運用法の極意実践編

- まずは、おさらい！！
- 豪ドル円、NZドル円、ランド円のような高金利通貨は高いスワップ金利を得られる。
- スワップ・中長期投資の肝は資金管理であります。レバレッジを1～3倍程度で運用を推奨します。
米ドル円も今年さらに利上げ予定ですので、米ドル円でもスワップ・中長期投資が可能でしょう。



- トレードの認識として長期トレード(1年以上～数年程度)はハーフマラソン～フルマラソンとイメージします。
- 中・長期(3カ月以上～ 数年程度)は10000m～フルマラソンのため、チャートでは月足～週足～日足を主に活用する。
- スワップ・中長期トレーダーは社長の視点で、持っている通貨ペアのポジションを従業員と見立ててトレードを心がけ、チャリンチャリンお金が入ってくるビジネス・事業の感覚で投資。



- 第二次安倍政権発足による異次元緩和、円安政策及び外国人投資家の為替のヘッジを利用した円安相場での豪ドル円、NZドル円での中長期投資成功例





- ・オリンピック開催都市(国)の通貨が開催時期近辺で安値を付けるアノマリーを利用した“ガラケートレーダーオリンピック(夏季)中長期投資手法”







- 中長期投資(3カ月以上～ 数年程度)ではスワップで得るのを主眼としておりますが、資金に余裕があり枚数を多く持てる投資家の方ですと、一度にポジションを取らずにスワップ投資のポジションをメイキングしていく段階で、スワップと差益で取るデイトレ・スイングと中長期投資のハイブリッド投資も可能となります。

ここではこのデイトレ・スイングと中長期投資のハイブリッドについて詳細を後程お話していきます。

以上が、今までのおさらいとなります。

- 豪ドル円でしたら53円、NZドル円でしたら40円、南アフリカランド円でしたら6円の可能性を想定してポジションを仕込みましょう。









- しかしながら、下げ続ける相場はありませんし、どこまで下げるかはわからないもので神のみぞ知るところであります。
- 例えばリーマンショック時に日経平均が7000円台を付け、第二次安倍政権に代わるまで8000円台を低空飛行していた時や、米ドル円が70円台を付けていた時に、誰が買おうとしましたでしょうか？
- であるならば、高金利通貨・資源国通貨の豪ドル円、NZドル円、南アフリカランド円を2018年から仕込み始めるには、なかなか良いタイミングではないでしょうか？



- 資金管理を徹底し、中長期及びさらに長期で2～3年前後を見て投資できる方でしたら豪ドル円、NZドル円、南アフリカランド円を推奨します。さらには今年さらなる利上げを予定しております米ドル円もお奨めします。
- これからFXを始めようとされている方々、始めて間もない方々、私ガラケートレーダーのように仕事をしながらトレードしている兼業トレーダーの方々、あるいは外貨預金感覚で金利（FXでいうスワップ）を目的としてゆっくり投資される方々は、是非この1～2年前まで下げ続けてきて、上向きつつある今から資金管理をしっかり行い、少しずつ仕込み始めるのをお奨めします。



- たしかにガラケーの意見とは別に逆の立場の見方としての相場の格言には落ちてくるナイフは拾うな！という格言があるのも事実ではあります。
- しかし他方で私のFX師匠が好きな言葉で、人の往く裏に道あり花の山や、相場は天井において最も強く見え、底において最も弱く見えるもの、という格言もありますので、2018年からゆっくりポジション形成してみるのはいかがでしょうか？



- 買いポジションを仕込むポイントとしまして、今年もどこかのポイントで大きくリスクオフになる時にリスクオフ通貨のクロス円が巻き戻しされた円買い相場で、日足チャートで長い下ヒゲをつけた時が仕込むポイントの1つといえます。
- また相場は下げ続けることもなければ、上げ続けることもないので、下げた時に仕込み、上げた時に、下げた時のポジションを一部決済、もしくは上げた時にスイスフラン円ショートを入れるのも、リスクヘッジの一つであります。



- クロス円及び今回ご紹介しております各高金利通貨ペアはリスクオン、リスクオフ通貨ペアで、日経225との相関性もあることから、株におけるヘッジファンドが持つ大口ポジションの顧客が解約する時は45日前に事前申告が必要な為、ヘッジファンドも解約に備え現金化しなければならないため、月末及び期末から45日前の毎月15日が意識され、直前の水曜日又は15日が水曜日の場合は、もし持っている含み益の出ているポジションで、日足・週足・月足で直近の抵抗線付近の値で推移している場合は、NYオプションカット～ロンドンFIXでスイング～中長期ポジションをポジション調整として間引くための決済も可能です。

- 決済・ポジション調整タイミングとして木曜日は水曜日の買いアノマリーの決済売りが入るので、売りのアノマリーがあります。
- 水曜日同様に、クロス円及び今回ご紹介しております各高金利通貨ペアはリスクオン、リスクオフ通貨ペアで、日経225との相関性もあることから、株におけるヘッジファンドが持つ大口ポジションの顧客が解約する時は45日前に事前申告が必要な為、ヘッジファンドも解約に備え現金化しなければならない。月末及び期末から45日前の毎月15日が意識され、直前の木曜日又は15日が木曜日の場合は、もし持っている含み益の出ているポジションで、日足・週足・月足で直近の抵抗線付近の値で推移していれば、NYオプションカット～ロンドンFIXでスイング～中長期ポジションをポジション調整として間引くための決済も可能です。



- 最後に私はまだ現在も、約3割のFX投資はガラケーを使っていますが、ガラケーの必要はありません。むしろスマートフォンの方が、通信速度も早く、画面も大きくて見やすく、アプリも充実していますので、スマートフォンのほうが素晴らしいでしょう。私も現在外出時は、ガラケーとスマホの2台持ちでトレードしております。

補足①

スワップ運用法として、トレードスタイル、トレードルールを確立しても、自身の感情をコントロールできるようになることが重要となります。

F Xをはじめ、投資の敵は自分自身の感情との折り合い、感情のコントロールにあります。

勝っている時に陥りやすい一つとして、いつでも勝てるのではないか？という錯覚に陥ることがあります。

そういう時は、常に謙虚な姿勢で望むことが重要であります。

また、ガラケー本人は、通常生活している時は、かなりのポジティブシンキングのオプティミストですが、トレードをする時は、ペシミストモードに切り替えるように心がけております。

補足②

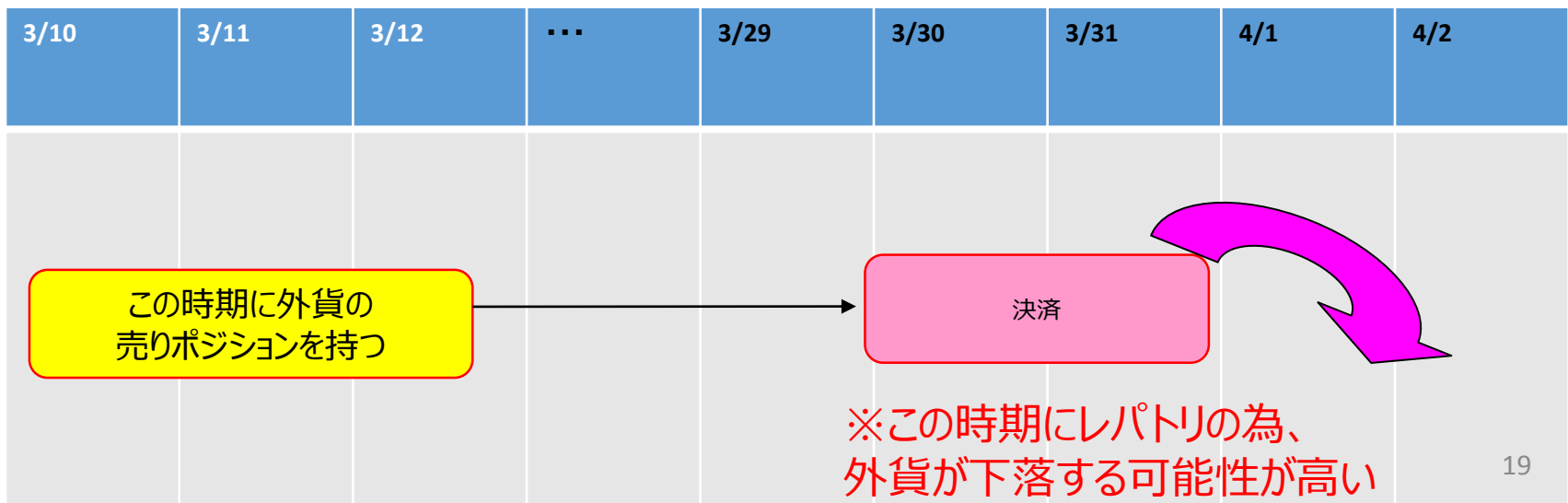
お奨め買い増しポイント①:レパトリ(レパトリエーション)

レパトリとは、レパトリエーション(repatriation)の略で、企業などが海外に投資していた資金を本国に戻すことをいいます。

例えば、日本の企業(3月末決算)が、米国に投資をしていた場合、3月の決算に備えて日本に資金を戻す事があります。その場合、ドルを売り、円を買う事になり、為替の変動要因となります。

多くの企業が同じタイミングに実施すると、ドル売り円買いの需要が発生する為、この時期はドル安・円高になりやすい、という傾向があります。

資金に余裕があれば、こういった時期にポジションを買い増すタイミングとしてお奨めします。





お奨め買い増しポイント②: 長いヒゲ(チャート)を利用したトレード

買い(売り)ポジションの取り方: BRIXITやチャイナショック等のようなリスクオフの大相場で、日足で長い下ヒゲをつけることが、年に数回あります。

日足で長い下ヒゲ(上ヒゲ)をつけた翌日に買い(売り)ポジションを取られるのをオススメします。

ポジションを取ってすぐに含み益が出た場合は、トレール注文で逆指値を上にならずし、利益を確定させ、スイングトレードに切り替える場合もあります。

またポジションを取った後にすぐに含み損が出た場合は、多少アグレッシブに買いポジションを買い増しできますので、資金次第では、前日の長い下ヒゲと同値まで10pips～20pipsごとに買い下がることも可能であります。

もし買い下がって、それよりもさらに下がった場合は、資金管理の観点で余裕(レバレッジ2～3倍以内)があれば、次の月足サポートラインまでは追いかけるのを待ちましょう。

含み益が出た各ポジションは全て利食い、含み損を抱えている各ポジションについては、中長期スワップ運用用のポジションに切り替えます。また万が一ポジションが少し増えてしまい、ポジション調整を行いたい場合は、ポジション数調整をしたいポジションの約定値と同値で指値を入れて、決済されれば経った日数分のスワップ分が利となります。



お奨め買い増しポイント③：月曜日の窓空けトレード

FXの相場には窓と呼ばれる月曜日に見られる現象があります。

週末の値と週明けの値にギャップがあることを窓と呼びます。

窓埋めトレードにつきましても、一度にポジションを取らず、資金に余裕があれば、窓空け時間限定で5～10pipsごとに買いの場合は買い下がります。

窓を完全に埋めるまで利食うことはせずに、フィボナッチ38.2%、50%(半値戻し)、61.8%と、イグジットに対してもナンピン決済を使います。

8時30分時点で、含み益のある各ポジションは全て利食い、含み損を抱えている各ポジションについては、中長期スワップ運用用のポジションに切り替えます。また万が一ポジションが少し増えてしまい、ポジション調整を行いたい場合は、ポジション数調整をしたいポジションの約定値と同値で指値を入れて、決済されれば経った日数分のスワップ分が利となります。



補足③

お奨め利食い決済ポイント①: 仲値ゴト一日週末前の9時55分前後

お奨め利食い決済ポイント②: 日銀指値オペ及び日銀金融政策決定会合等で円安に振れた時

お奨め利食い決済ポイント③: リスクオン相場でロンドンFIXのフィキシング時に高値を付けた時

お奨め利食い決済ポイント④: 月足・週足で何本か強い抵抗線となり得るレジスタンスラインがある箇所

<リスク開示>

このセミナーは、情報提供を目的としており、FX取引の勧誘を目的としたものではありません。また、実際の市場動向とは異なる可能性があり、断定的判断を提供するものでもありません。当該セミナーの内容を予告なく変更する場合があります。

当該セミナーの内容および資料のご利用によりお客様に損失が生じた場合であっても、当社および当該セミナーの講師（所属会社を含む。）は一切の責任を負いません。お取引につきましては、お客様ご自身の判断と責任において行っていただきますようお願い申し上げます。

なお、セミナーに関する著作権は、当社および作成者に属します。

お客様の私的使用目的以外での使用、他人への譲渡や販売または再配信を行うことはできません。

<注意喚起>

店頭外国為替証拠金取引は、元本や利益を保証した金融商品ではなく、為替レートの変動等による損失発生可能性があります。さらに、レバレッジ効果（想定元本と比較して少額の資金で大きな取引ができる仕組み）や為替レートの変動等によって注文（ロスカット注文を含む）が約定しない場合等、元本を上回る損失発生可能性があります。

特に、マイナー通貨（流動性の低い通貨）の取引をされる場合、元本以上の損失発生可能性があります。加えて、スワップポイント（通貨間の金利差調整額）においては通貨ペアやポジションの状態（売りまたは買い）によっては、受け取れる場合もあれば、支払わなければならない場合もあります。

当社は、インターネットを通じて店頭外国為替証拠金取引サービスをご提供しておりますので、お客様のパソコン・インターネット環境や当社のシステムに不具合が生じた場合等、取引ができなくなる可能性があります。また、お客様の取引の相手方は当社（相対取引）となっており、取引所取引とは異なりますので、契約締結前交付書面をよくお読みいただき、内容をご理解の上、ご自身の判断により取引を行っていただきますようお願いいたします。

商号：ヒロセ通商株式会社

業務内容：第一種金融商品取引業

登録番号：近畿財務局長（金商）第41号

加入協会：金融先物取引業協会会員番号1562